



生きものの“つぶやき”：
「臭いフェチです・・・」

エッセイ：

スイレンの中に埋もれて転げ回り、なかなか出て来ず、とても気持ち良さそうにしている蜂を目撃しました。転げ回っている蜂の姿が何とも愛らしく感じられました。

どんな香りがするのだろうかと思像しながら眺めていました。

動くことができない植物は「受粉」という生命維持のための目的を昆虫に託しています。

互いに関わり合い、助け合いながら生きている姿は、私たち人間に大切なメッセージを与えてくれているようでした。私たちが普段食べている野菜や果物も、蜂などの昆虫によって実を結ぶことができます。一つの命から始まる繋がりに生命の神秘を感じました。

送粉者の代表格とも言えるミツバチは、農薬などの影響によって減少傾向にあると言われています。人間の都合だけではなく、昆虫等と共存できる優しい未来を創っていかれたらと思います。(349字)

生きものの紹介：

セイヨウミツバチ

外来種。

1876年ヨーロッパから移入された。蜜や花粉を集める能力が高く、長く人に利用されて

きた。

現在、スーパーなどの店頭に並んでいる商品や、加工食品の原材料に使用されているハチミツのほとんどが、セイヨウミツバチのハチミツ。

撮影場所・日時:

滋賀県草津市 草津市立 水生植物公園みずの森 2022年7月24日

応募者の自己紹介:

1. 高尾健翔／近江兄弟社高等学校・2年
2. 所属：剣道部

審査員からのコメント:

写真がとてもきれい。つぶやきのセリフや、気持ちよさそうに転げ回っているという描写が、ミツバチの姿をととても生き生きと感じさせてくれます。



生きものの“つぶやき”:

「苔、めっちゃ ウマイマイ！」

エッセイ:

公園で散歩をしている途中、木の上を見るとおいしそうに苔を食べているカタツムリに出会いました。

カタツムリは学名が「マイマイ」なだけにウマイマイというダジャレを思いつき、思わず笑ってしまいました。

カタツムリは日本だけでも 800 種類ほどいますが、大きさも殻の色も住む場所もそれぞれ違います。移動性が低いため、限られた地域で多様に種が分化した生き物です。

新しく開発された場所では決して見ることができず、水辺の自然が多い場所でしか生き

られないので、この小さな命を守るためにも今ある自然を大切にしていきたいと思いました。(252字)

生きものの紹介:

クチベニマイマイ

樹上性のカタツムリ。

殻口が赤いカタツムリで、近畿地方・中部地方西部・伊豆諸島に分布する。

撮影場所・日時:

滋賀県米原市 グリーンパーク山東 2022年5月14日

応募者の自己紹介:

1. 高尾健翔／近江兄弟社高等学校・2年
2. 所属：剣道部

審査員からのコメント:

思わず何度もくちずさんでしまう“つぶやき”の語呂の良さ！写真の構図がとても良いなと思いました。